

鬼	北上市立	館
	の	
だ	よ	り
第24号		



泣く子はいねがあ～



なまはげさんと記念撮影



福豆をまく野石のなまはげさん

2006年 ～市民の開運を祈念して…～

毎年恒例となった、「福豆鬼節分会」(2/5(日)開催)今年から岩崎地区自治振興協議会との共催で行われ、1000人近い来館者で賑わいました。「福はあ～内!鬼もお～内!」の掛け声でまかれた福豆まき。宝探しゲームでは子どもたちが豪華景品を求め、雪の中に隠された宝を夢中になって探しました。ステージでは城内太鼓の轟きに始まり、鬼剣舞の披露や、前夜に煤孫地区、北上市街を訪れ、子どもたちを激励した本場秋田県男鹿市の野石なまはげ保存会による実演が行われました。節分会の締めくくりに2006年、市民のみなさんの開運を祈念して約1000個のもちがまかれました。

鬼の館 05

下半期をふりかえる

特別展

『収蔵資料展』原画で見る鬼絵本 ～絵本の中の鬼たち～

2月28日(火)～4月16日(日)



絵本「鬼かけっこ物語」より

平成17年度、皆様からご協力いただいた寄贈・寄託資料、並びに購入資料の他、「原画で見る鬼絵本～絵本の中の鬼たち～」と題し「げんこつどろぼう」「くにさきの鬼どん」等故斎藤博之氏の鬼絵本の原画や、北上市の入畑ダム周辺地域「鬼翔平」を舞台に制作された民話絵本「鬼かけっこものがたり（竹林征三／田村喜子 原作、野村たかあき 画）」等を公開展示しました。

特別展

『土産と産土鬼』～今昔の鬼土産～

9月25日(日)～11月20日(日)

「うぶすなかみ産土神」とは、一般に先祖または地域社会を守る神やそれを祀る神社をいい、生まれた土地の守り神とされています。また、その土地の名産を求めて贈る、いわゆる「みやげ土産」は、江戸時代、伊勢詣や善光寺詣などの社寺参詣の旅において得た神仏のご利益や恩恵を「土産」として持ち帰る風習が習慣化したことが始まりのようです。今回の展示では、その土地の神として根付き、崇められている鬼をテーマにさらにそれが土産として販売されているものをとりあげ、公開しました。

特別展・開放事業

『市民の制作作品展』

12月1日(木)～2月19日(日)

市民には、各伝統芸能等の普及活動と並んで、絵画や彫刻、陶芸等様々な創作活動に興味を持つ方々が多く、個人やサークル等に参加し、技術を習得し制作に携わっています。これらの作品の公開の場を提供しようとの作品展を開催しました。陶芸や和紙ちぎり絵、面や手芸、絵画など約150点、72名の方々の作品展示となりました。



鬼学講座

～鬼の源流を求めてIX～

- 第4回 古代出土資料からの鬼～発掘資料からみる民衆の祈り～
- 第5回 北上市の祭祀遺跡～原始から古代から中世～
- 第6回 移動研修（黒石寺・蘇民祭）

生涯学習の一端として開講している成人対象の講座です。今年の移動研修は2月4日夜半から2月5日早朝にかけて行われた黒石寺の蘇民祭に向き、鬼子登りや蘇民袋争奪戦など激しい炎の祭りを見学しました。



■ 芸能公演

4月から10月までの第4日曜日に開催している鬼の館芸能公演。市内の各保存会の協力を得て約1時間のステージをご覧ください。当館学芸員の解説付き。鑑賞無料ですのでお気軽にご覧下さい。写真は「カニムクリ」という演目です。鬼剣舞の演目の中でもアクロバットの踊りで、宙返りや車座・風車などの曲芸で、観客を魅了します。



「カニムクリ」鬼剣舞の演目の一つ

■ 鬼っこわんぱく講座 ～鬼剣舞体験～



鬼の館では、夏休みと冬休みを中心に市内の小学生を対象とした「鬼っこわんぱく講座」を開講しています。夏休みは、春来る鬼「ナモミ」の里、岩泉町へ2泊3日のキャンプに出かけました。そして冬休みには、恒例となった鬼剣舞体験を行いました。今年は5歳から小学5年生まで16名が集まり、岩崎鬼剣舞保存会の指導のもと練習を重ね、本番の福豆鬼節分会では「刀剣舞の狂い」を立派に披露しました。それではここで受講生の一人、黒沢尻東小学校5年、照井佳沙音さんのお礼の言葉を紹介します。

謝辞「お礼の言葉」

黒沢尻東小学校5年 照井佳沙音

遠い昔から、人から人へ受け継がれてきた、伝統ある「鬼剣舞」を、素晴らしい先生方に教えていただき、本当にありがとうございました。これからも、この岩手・北上の郷土を勉強し、人々に伝えられてきた歴史や芸能を、もっと沢山、研究して、私たちの時代から、次の時代へと、伝えてゆきたいと思います。

毎回、いっしょうけんめい教えて下さった、岩崎鬼剣舞の先生方、鬼の館の職員のみなさん、送り迎えをして見守ってくれた、お父さん方、お母さん方、ありがとうございました。

■ 鬼ッズ・プレイミュージアム

～全身で鬼を感じてみよう！～

鬼になったり、鬼で遊んだり、鬼をつくったりできる、こどものための遊び場、それが「鬼ッズ・プレイミュージアム」です。東和町の成島和紙を用いて張り子の鬼面・河童面づくりを中心に活動しています。世界の鬼に変身したり、張り子のお面づくりは来館時に体験できますのでお気軽に職員にお声がけください。その他、北上市の出前講座に「和紙面づくり」が組み込まれ、市内子供会や公民館、小学校の総合学習などにも活用されています。また、毎年夏休みと冬休みには市内小学生を対象に親子ワークショップを開催していますが、今年の冬は参加者ほぼ全員が初めての縄緬いでお正月しめ飾り作りを体験したり、「鬼が〇〇しているところ」というテーマのもと、それぞれが思い描く鬼を版画で表現してもらいました。露天風呂につかっている鬼や、初日の出を拝む鬼など参加者の心に潜むさまざまな鬼をかいま見ることができました。



平成18年度のお知らせ

◆特別展・開放事業①

赤平勝弘 個展
4月28日～7月16日

◆企画展

ヘンペイ・ケンベエ・ケンバイ
7月23日～9月17日

◆特別展

會田喜一遺贈宝物展
9月23日～10月22日

◆特別展

江戸時代からの贈り物
10月29日～12月10日

◆特別展・開放事業②

匠の伝承展
12月16日～平成19年2月25日

◆特別展

収蔵資料展
平成19年3月4日～4月15日
※巡回移動展「鬼のお散歩」(予定)

◇鬼の館芸能公演

4月～10月までの第4日曜日
4月30日、5月4日、8月14日、平成19年3月25日
午後1時30分より鬼の館野外ステージにて開催
鑑賞無料

◇大乘神楽大会

6月11日

◇鬼っこわんぱく講座

市内小学生を対象とした講座
鬼っこ合宿や鬼剣舞体験を通じて体験的に鬼の心を学びます。

◇鬼学講座

鬼に関する豊かな知識と教養を培う成人向けの講座です。

平成17年度収集資料

●寄贈資料

- 鬼土鈴・鬼キーホルダー
- 趣味の手拭 奇勝仏ヶ浦
(北上市北鬼柳 瀬川誠 様)
- DXゲゲゲハウス～鬼太郎ハウス～
(北上市滑田 佐藤雅紀 様)
- なまはげ栓抜き
- 七福神 (ガラス製)
- 切手シート [なまはげ・竿灯切手]
- 置物 (陶製)
風神像・天狗面・鬼の念仏像・鬼像
(胆沢町小山 鈴木明美 様)
- 民俗神 LONO [ロノ]
(北上市成田 斎藤岳丸 様)
- 鑄造鬼面 (登別市 鬼サミット土産)
- 鬼風船 3色一式
- ぶっちゃん (めんこ) 1シート
(三重県上野市観光協会 鬼サミット土産)
- 鬼面 (紙印刷) (青)
(北海道登別市 地獄まつりPR用)

- 鬼面 (紙印刷) (赤) (青)
(京都府加佐郡大江町 大江山鬼伝説PR用)
- 大津絵 鬼の節分 (色紙絵)
(神奈川県大磯町 河口邦山 様)
- 玩具 土鈴 こぶとりじいさん
(北上市相去町 児玉智江 様)

●寄託資料

- 錦絵 むかさり絵
- 押絵雛 常盤御前 2点
- 押絵雛 武蔵坊弁慶
- 節句人形 安宅 勸進帳
(義経・弁慶・富樫) 一式
(北上市村崎野 針生泰彦 様)

●購入資料

- 錦絵 義経一の谷宗音松陣取之図
- 錦絵 源義経出陣之図
(秋田県湯沢市 沼倉孝彦)
- 木製 なまはげ面 (青) (赤)
(作成 秋田県男鹿市 面師 石川守三)
- 立像 なまはげ像
(作成 北上市相去町 赤平勝弘)

来館者の声

鬼女紅葉の里、信州長野から来ました。鬼にあってホッとしました。

(17.10.13)

滝沢からきました。初めて鬼剣舞を見ました。若者達の熱心な姿に感激しました。いつまでも大切に守ってってください。(17.9.25)

鬼は人の中に住むんですね。

(17.9.4)

This place rocks! From U.S.A

(17.7.3)

鬼一人間の本性の内なるものと見たり おのれを知る。(17.4.5)

泣いた赤鬼のビデオがおもしろかったです。なつかしい気持ちになりました。(17.8.21)

(来館者ノートより)

来館の際は是非ご記入下さい。

鬼の館・移動展

2月7日から3月26日まで、仙台市の東北電力グリーンプラザにて、とうほく情報コーナー企画展「東北に棲む鬼」展が開催され、鬼の館からも多くの資料が運び込まれました。東北の民話や伝説、童話、民俗芸能などの中に登場する鬼をテーマにその描かれ方は様々ですが、人々にとって鬼とはいったいどんな存在だったのかを問い掛ける展示となり、当館の他、東北各地から資料が集められ秋田のなまはげや宮城のカマド神、福島は安達が原の鬼婆など東北各地に伝わる様々な鬼が勢ぞろいしました。



『できごと Oni ミュージアム』

～新聞の見出しより～ H.17 下半期

鬼学講座が好評

多角的に姿追う

祭祀遺跡への知識深める (岩手日日 9/11)

鬼の土産品あれこれ

「神仏」から「身近な存在」へ

屏風絵や特大とっくりも (岩手日日 10/25)

農民の心 全霊かけ表現

<宝大陸いわて> (読売新聞 11/29)

市民アート一堂に

制作作品展 (週間きたかみ 12/24)

ニッポン開墾 中山間地からの発達 たたら製鉄

文化 自然 見つめ直す

拓かれる里 宮城 九森 (河北新報 1/4)

わら細工文化を体験

親子で作ったしめ飾り (週間きたかみ 1/21)

張り子で鬼剣舞面づくり

伝統技にチャレンジ (週間きたかみ 1/28)

なまはげも参加

4・5日福豆節分会 (岩手日日 2/2)

東北各地の鬼紹介

7日から仙台で移動展 (岩手日日 2/5)

福はうち 鬼もうち 全国の鬼呼び集める

なまはげも参加 にぎやかに

各種イベント 家族連れでにぎわう

(岩手日日 2/6)

水沢・黒石寺 蘇民祭

寒さ吹き飛ばす 裸男と炎の祭典

(岩手日日 2/6)

縄文人の祈りとは 市内の遺跡に焦点

「鬼学講座」

(岩手日日 2/11)

北上市民劇場

熱のこもった演技披露

鬼剣舞の心 子供たちに (岩手日日 2/12)

福も鬼もみんなで楽しんで

ホットなふるまいに列「福豆鬼節分会」

(週間きたかみ 2/25)

本物のナマハゲにビックリ

春来る鬼 北上に現る

一年の息災を祈り (週間きたかみ 2/25)

故 斎藤博之画伯の鬼絵本原画 紹介

あすから収蔵資料展

(岩手日日 2/27)

鬼まつり 黒石寺蘇民祭

鬼の館主任学芸員 鈴木明美

1. はじめに

世界に比して国内の祭りは多種多様であり、四季を通して繰り広げられている。それらは、大別すると農耕文化に起因した民間祭儀、死者供養や怨霊・悪霊除災に供する寺院祭儀、万民安寧・国家安泰を祈願し、人々の信仰心が根底に根強く残る神社祭儀、さらに地域の活性化を命題として創作された振興まつり等に区分される。これらは四季の節目の儀礼祭儀として、それぞれに特徴的な内容で構成され、執り行われている。まさに祭りに彩られた日本の“まつり文化”と言っても過言ではない。

これらまつりの中には、「鬼」が主役となって登場する祭礼・祭儀が数多く見受けられ、特徴的なまつりの雰囲気や漂わせ、聴衆者の信仰心を捕らえて離さない。そのひとつに岩手県水沢市黒石（くろいし）地区に伝わる「黒石寺蘇民祭（こくせきじそみんさい）」がある。

2. 黒石寺略縁起

まつりの背景となる黒石寺は、天平元年（729）行基菩薩の開基とされ、東光山薬師寺と称されたが、延暦年間の蝦夷征伐の戦火にあい、堂宇は焼失した。大同二年（807）飛驒の工匠が方七間の薬師堂を再建し、嘉承二年（849）慈覚大師円仁が復興して、妙見山黒石寺と改名。天台宗の古刹である。盛時には伽藍48宇を数えるまでに隆盛を誇るが、弘長元年、天正18年、天保11年、明治14年の度重なる火災によって伽藍一切を焼失し、現在の本堂と庫裏は、明治17年（1884）に再建されたものである。本尊は、カツラ材一木造りの薬師如来坐像で、胎内に貞観4年（862）の造像記が墨書で残されている。さらに僧形坐像・伝慈覚大師坐像、四天王立像等、古代東北の仏教信仰を伝える貴重な仏像を祀り、これらは国指定重要文化財に認定されている。

3. 黒石寺蘇民祭

千年の伝統を誇るとされる当寺の蘇民祭は、

旧正月の七日夜半から八日早朝にかけて行われ、本年は2月4日の夜半から5日早朝にかけて実施された。厳寒積雪の中の裸祭りや、災厄消除・五穀豊穡を祈願するものとされ、祭りの内容は次の五つの祭儀から構成される。

1) 裸参り

（夏参り・祈願祭ともいう。午後10時から）

厄年連中や一般祈願の善男が各々蠟燭をともした角燈を持って、瑠璃壺川で身を清め、“ジョヤサ、ジョヤサ”の掛け声で、薬師堂から妙見堂を三巡して厄災消除や五穀豊穡を祈願する祭儀である。ジョヤサの掛詞は、除夜祭・浄夜祭・常屋作・序夜叉の漢語が考えられている。

2) 柴燈木登り

（ひたきのぼり：午後11時30分から）

本堂前に長さ5尺余りの松の木を井桁積みにして火を点じ、厄年連中や一般祈願の善男がこの上に登って火の粉と火煙を浴びて身を清め、厄を祓って山内節をうたって氣勢をあげる祭儀である。この祭儀中にもジョヤサの掛詞がある。

3) 別当登り（べっとうのぼり：午前2時から）

將軍木で（かつのき）作った手木をもった総代たちに本堂までの道を祓い清められながら住職が蘇民袋を従えて本堂に登り、災厄消除・五穀豊穡の護摩焚きをする祭儀である。

4) 鬼子登り（おにこのぼり：午前4時から）

別当登りと同様、総代たちが本堂までの道を祓い清め、その後にはほら貝や太鼓の囃し手が続き、つづいて七歳の男子二人が麻衣をまとい、手に木斧と木槌を持ち、背に鬼面を逆さに背負い大人の人におぶさって続く。この後には、裸の厄年連中や一般祈願の善男が掛詞を唱え氣勢をあげながら続く。鬼子が本堂に入った後、住職が外陣に出て曼荼羅米を撒き、ついで外陣中央にある護摩台に燃え盛る松明が置かれ、鬼子がこのまわりを三度めぐる祭儀である。

5) 蘇民袋争奪戦

（そみんぶくろそうだつせん：午前4時30分頃から）

將軍木で作った長さ3cm位の六角柱の小間木、

五升がつまった蘇民袋を裸の男衆が奪い合う争奪戦。開始後まもなく袋に刀が入れると、小間木が飛び散り、災厄を免れる護符ということで競って手に入れようと鑑賞者を巻き込んで繰り広げられる。2時間あまり続いた争奪戦も太陽が昇るとともに親方が取主（その時点で袋の首の部分握っていた者）を判定し、祭りの全てを終了することとなる。

4. 黒石寺と蘇民・牛頭・祇園信仰

黒石寺は、薬師如来坐像を本尊として奉る神社である。薬師如来は神仏習合や神仏分離等の歴史的な背景と民間信仰の混合から牛頭信仰や蘇民信仰・祇園信仰とも関係が深いとされる。

牛頭信仰は、天竺（てんじく・インド）の祇園精舎の守護神とされる牛頭天王を祭る信仰であり、京都八坂神社の祭神ともなっており、行疫神として知られるが、民間信仰との混合によって各種の教説があり、薬宝賢明王とも呼び、本地仏を薬師如来とする説等から蘇民信仰や祇園信仰とも強いかかわりを有すことで知られ、「備後国風土記」では、牛頭天王を武塔神（むとうしん）とし、素戔鳴尊（すさのおうのみこと）と同一視しており、有名な蘇民将来の説話を伝えている。この逸文には、旅に出た武塔神（素戔鳴尊尊）が宿を請うたところ、裕福な弟の巨旦（こたん）将来は断り、貧しい兄の蘇民将来は歓待したため、“茅の輪（ちのわ）”の護符を腰につけるように教えられ蘇民は疫病を免れたと語られ、この説話は、旧暦6月の夏越祭（なごしまつり）の茅の輪行事の由来ともなっている。

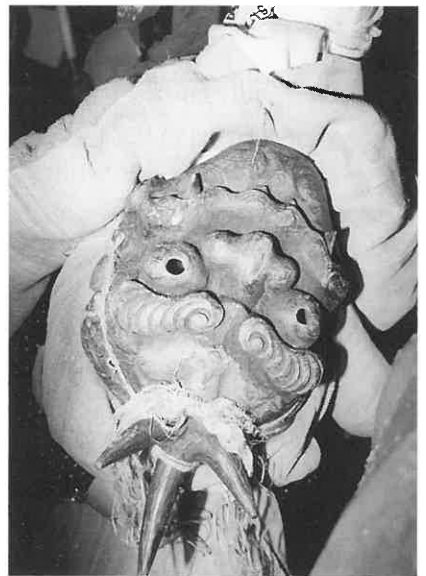
また、祇園信仰は、疫病を鎮める強力をもつ疫病神として牛頭天王を奉り、消厄除災を祈願する信仰である。

京都府の八坂神社や愛知県津島神社をはじめとする素戔鳴尊を祭神とする神社を中心として広まっており、このような牛頭天王が素戔鳴尊と同一視される所以は、素戔鳴尊の多面的な神格がすさまじい荒ぶる力で裏づけされていることから人々の畏敬と期待の念が結び付けた結果であろうとされている。すなわち疫病や流行などの不慮の災厄にさいなまれ続けた古代の人々が、既にあった伝説や信仰に結び合わせるこ

で信仰の対象として神格化したものであろうことが推察される。ちなみにこれらを祀る祭礼には、祇園祭や天王祭の名称が付される場合が多く見受けられ、疫病が流行しやすい時節に執り行われるのが一般的なようであり、さらに歴史を遡ると9世紀後半から10世紀にかけての平安京では疫病の発生は、怨霊にあるとして御霊信仰を派生させ御霊会（ごりょうえ）という新しい宗教行事を生み出し地方に伝播することとなる。

これらは、地方住民の生活の中で育成されていた牛頭信仰と結び付き、都市生活者に受け入れられ、信仰形態が都市的な感覚によってさらに洗練され、祇園信仰として派生し再び地方住民に帰り、根付いたものとみられよう。

このような視点にたつて黒石寺の蘇民祭をみると、荒々しさと優雅さが入り混じり、各所に“祓い儀礼”も多々見られることから、古来から地域に根差していた牛頭信仰と黒石寺の本尊薬師如来とが結び付き、さらに素戔鳴尊伝説（蘇民将來說）とが融合し、洗練された祇園信仰を取り入れて現在に継承される儀礼祭儀であるとみることができよう。いわゆる薬師如来＝牛頭天王＝素戔鳴尊＝武塔神、この一連の同一視された信仰形態が黒石寺を取り巻く広域的な地域住民に根差していた結果が黒石寺と結びつき派生した奇習祭儀であると推察するものである。（文責：鈴木）



黒石寺蘇民祭：「鬼子登り」 鬼面

鬼の里だより

● 企画展・特別展

〈特別展〉「土産と土産」～今昔の鬼土産～
9月25日～11月20日 入込客数 5,056人

〈特別展〉開放事業②
「市民の制作作品展」
12月1日～2月19日 入込客数 4,220人

〈特別展〉「平成17年度収蔵資料展」
「原画で見る鬼絵本」
～絵本の中の鬼たち～
2月28日～4月16日（開催中）

● 鬼っこわんぱく講座

〈鬼剣舞体験〉1月15・22・29日、2月4・5日
（連続5回） 修了 16人

● 鬼ッズ・プレイミュージアム

10月1日～3月31日
・張りこ面作り 参加者 85人
・出前講座（5回） 利用者 108人
・出張面づくり（水沢） 参加者 32人

〈冬休みワークショップ〉

・お正月しめ飾りづくり 参加者 35人
・鬼剣舞面づくり 参加者 35人
・鬼絵版画 参加者 20人

● 鬼の館芸能公演

10月23日 御免町鬼剣舞保存会 観客 93人

● 鬼学講座

第4回 11月13日 「古代出土資料からの鬼」
講師：伊藤博幸氏 受講者 23人
第6回 1月14日 「北上市の祭祀遺跡」
講師：本堂寿一氏 受講者 23人
第7回 2月4～5日
移動研修 「黒石寺 蘇民祭」見学
参加者 7人

● 館外展示

2月7日～3月26日
「東北に棲む鬼展」 東北電力グリーンプラザ

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。

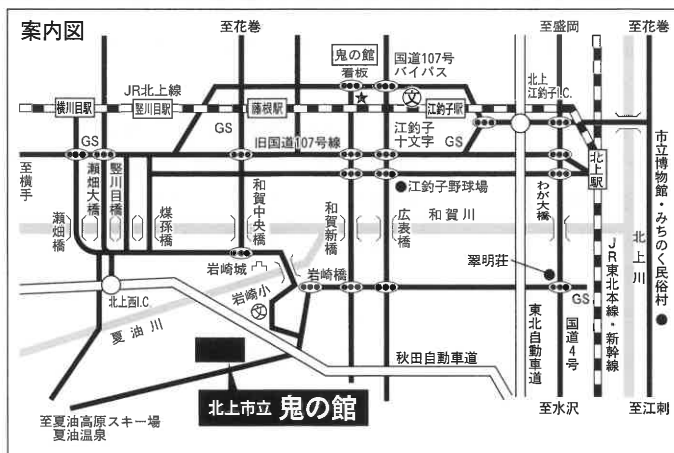
休館日
・12月～3月の月曜日
・12月～3月の国民の祝日の翌日
（土・日・月の場合は火曜日）
・館内整理日（11月27日～11月30日）
・年末年始（12月28日～1月4日）

入館料	一般	300円（250円）
	高校生	200円（150円）
	小中学生	150円（100円）

（ ）内は20人以上の団体料金。
下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土・日曜日
- ・学習活動で申請利用する時

交通案内
・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行。「岩崎橋」下車徒歩10分。
・JR北上駅より車で20分。
・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第24号 2006.3.31

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508